



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.05

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 9歳、5歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

20代はアルバイトをしていましたが、結婚を機に将来のことを考え、29歳で正社員の仕事に就いて7年ぐらい働きました。この間、子どもを二人出産しましたが、子育てや制作との両立が難しいことから転職し、派遣の仕事をして3年くらい経ちます。

正社員の仕事はイラストレーターで、都内の広告製作会社に勤めていました。産休と育休が取れたので、その点は助かりました。ただ、通勤に1時間半から2時間かかる場所だったのと長時間労働が常態化していたので疲れてしまい、平日はほとんど制作できませんでした。職場の近くにお寺や現代美術のギャラリーがあったので、可能な限り昼休みを使って見に行ったりして、育児と仕事だけで1日を終わらせまいと必死にもがいていましたね。

この頃は、思うように制作できなくて焦っていました。年に1度ギャラリーのグループ展に呼んでもらっていたんですが、ヘトヘトさが滲み出た絵しか出せなくて、不甲斐なかったです。入社して2年ほど経ち妊娠した頃には、正直これを機にようやく休めるという気持ちでした。

現在は、派遣で大学事務の仕事をしています。平日週5日、プラス土曜は隔週で半日働いています。多いようですが、年間で言えば長期休暇もあって、休みは意外と多いです。普段の勤務時間は9時から17時までですが、夏休み中は10時から17時までと1時間短くなります。給料は下がりましたが、以前の正社員の仕事よりは、子どもが急に熱を出しても休みやすくなりました。通勤時間が徒歩10分程度なのも助かっています。

作家活動のために仕事を休む場合、アルバイトをしていた時は、休みも取りやすく、不便を感じていませんでしたが、転職して正社員になった時には、最初は応援してくれたものの、最終的には「会社のためにならないんだったらちょっと…」という雰囲気になってしまい、思い出すと辛いです。

作家活動を続けるのに、勤め先で肩身の狭い思いをされていたんですね。

そうですね、周りのせいというより、自分で自分の首を絞めてしまっていたのかもしれないのですが、どこにいても居場所がない感じで、ずっと心に引っかかっていました。もっと売り上げが出せれば、こんなに肩身の狭い思いをせずにやれるのかなとも思いましたが、同時に、作家としてのキャリアも積みたいし、子育ても悔いなくやりたいしと思っていると、全部が中途半端だという気持ちに陥ります。決して全てをきちんとできる訳ではないということは頭では分かっているのですが。実際、子育てや家事が一番雑になってしまって、子ども達には申し訳なかったです。

30代は社会的なスキルがないまま、どんどん歳だけ取っていく感覚にとらわれ、自分のこれまでの選択に自信を失っていました。今も、まだその感覚にとらわれているところは大きいですが、自分の考え方の癖と折り合いをつけながら、できることを増やしていきたいと思っています。

**07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？**☒ はい ☐ いいえ**08 (07)が「はい」の場合、預け先は？**☒ 保育園 ☒ 通常保育 ☐ 一時保育 ☒ 認可 ☒ 認可外 ☐ 幼稚園 ☐ ファミリーサポートセンター
☐ その他

上の子も下の子も保育園に行っていました。1歳児クラスに4月からの入園を申し込んだのですが、認可保育園は倍率が高くて落ちてしまいました。そのため育休を半年伸ばしてもらって2歳になるまでの残りの半年を認可外保育園に預け、仕事復帰しました。家の近所の認可保育園の枠が空いて移れたのは2歳児クラス4月だったので、認可保育園に対しては1年間の待機期間がありました。二人ともです。

上の子と下の子は4歳離れていて、その間に待機児童対策で世間的には保育所も増えていた気がするのですが、住んでいる家の近くでは増設されなかったの、最初から認可保育園に入れるのはやはり難しい感じでした。下の子の時には、0歳から保育園に入れようと思えば、兄弟加点で少し入りやすかったのかもしれませんが、育休の間に制作をしたいという気持ちもあって、こちらの希望のタイミングで入れないなら待とうと決めました。

早生まれかどうかで認可保育園の入りやすさが変わってくるというのは、産んでみて初めて分かったことで、ちょっとショックだし、びっくりしました。はっきりとは覚えていませんが、私の住んでいる所では当時、待機期間が半年でポイントがプラスされる制度がありました。1歳の誕生日まで育休をとり、その後一番枠が増えやすい4月を狙って認可保育園に入れたい場合、4月から秋頃までに生まれた子は加点された状態で新年度応募に挑めたんです。1歳児クラスの入園は育休が切れて子どもを預けたい人が多く、保育園が最も混み合うタイミングなんですけど、生まれ月によってポイントの付き方が変わり、その1点があるか無いかで明暗が分かれるのは、ちょっと不公平だと思っていました。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉☒ 保育園や学校に行っている間 ☒ 睡眠時間を削る ☒ 子どもが寝てから ☒ 早朝 ☒ 実家・親に預ける
☒ 配偶者に預ける ☐ 仕事の合間 ☒ 仕事が休みの日 ☐ 捻出できない ☒ その他

私の性格上、毎日ちょっとずつ制作するというのが苦手で、展示のスケジュールが決まったらそれに合わせて無理してでも直前に集中して制作する方がやりやすいんです。展示が近づいてきたら、寝る時間を削り、家族に任せられそうだったらお願いし、あとは保育園で土曜も預かってもらいます。子どもがどうしても行きたくないという時は夫が見る場合もあって、都度調整です。同じく画家である夫が展示を控えている時は、お互い譲り合ってやっています。

作品を描いている時間は長いですが、一旦完成したら設営はだいたい1日で済みます。設営作業をする時は、平日子どもが学校や保育園に行っている間に自分の仕事を休んで行うこともありますし、土日に夫に子どもを見てもらっている間に行うこともあります。制作時間は、なるべく日々少しずつ取って進めるように心がけていますが、どうしても間に合わない時には自分の仕事を休んだりして何とか捻出しています。正直、罪悪感もあるし、気持ちが揺らぐことがありますね。

ご両親はお近くにお住まいですか？

私の両親は電車で1時間ぐらいの距離に住んでいて、元気な頃はよく面倒を見てもらっていたのですが、コロナが流行る直前に、父は死去、母は体を壊してしまって、頼る先という感じではなくなりました。今は母の手伝

い等のため実家に行くことが多いです。

夫の両親は隣駅の距離に住んでいるので、頼りにさせてもらっています。コロナ禍を挟んで以前ほど頻繁な行き来はないものの、基本的に制作活動に理解があり協力的でいてくれるため、それはとても助かっています。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 平日6時間、休日終日

② 作家：平日0時間、休日3～4時間 → 平日1時間、休日変則的

③ 仕事：15時間30分（移動時間含む） → 8時間

11 お子さんをもった後、作品制作の環境（場所）は変わりましたか？

場所は自宅が変わっていないのですが、子どもが大きくなるにつれて子どもの物が増えて、私も夫も絵は増えるので、どんどん場所が狭くなっています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

私は日本画を制作しているのですが、制作方法もテーマも変わりました。

制作方法は、まとまった時間をとってやらないと集中できないタイプだったんですが、そうは言っても細切れで時間を使わないと現実問題として終わらないので、以前よりは毎日少しずつ制作しよう意識するようになりました。上の子どもが小さい時は、それでもまだ昔のスタイルを維持しようとしてたところがあるんですが、二人目ができて余計時間がなくなったので、変化を余儀なくされました。

テーマについては、二人目の子どもを妊娠してすぐ、自分の母親が倒れたり、お腹の子も流産の可能性があると言われたり、生と死に直結する出来事が同時にすごく身近に起こったことに影響され、絵がガラッと変わりました。人間の営みや、死生観を表現したいなと思い、生まれたり死んだりしながらも、大きなうねりを持って繋がっていく命を意識した作品を描き始めました。

あとは現実的な話で、時間がない中で完成させなきゃいけないというところから、色数を絞るという方法にたどり着きました。岩絵の具は基本混色をせず、いろんな色の絵具を1回1回チョイスしながら画面上で色を合わせていくんです。それまではたくさん色を使っていましたが、選ぶ時間を減らして画面に素早く出したいという理由から、モノトーン寄りになっていきました。そうすると手数が減るのと、ここは何色を置こうかと絵の前で悩む時間が減って作業効率上がるんです。それに、時代が変わっても命が繋がっていくという普遍的なことは、モノトーンでの表現が向いてるなという直感もあって、それらがちょうど噛み合い現在の表現に繋がりました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

一番はやっぱり、子どもの世話を夫以外に頼みづらくなったということでしょうか。子どもが騒いでいる状況でも描く、というのはなかなか難しかったです。作品の内容については、私はそこまで影響を受けていなかったと思います。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

悲観的になりすぎないように気をつけています。子どもが大きくなってきて、あと数年すれば中学生、高校生だと思うと、お金のかかり方が気になってきますし、子ども部屋も足りないし、自分が制作することでかかるお金

を子どもに回した方がいいんじゃないかと思うことも多いです。

でも、制作を続けられなかったのは子どものせいだと将来思ってしまうことが一番嫌なので、子どもを言い訳にしないように、今制作をやりたいならやっぱりやるようにしよう、手を尽くして続ける道を探ろうと、前向きになれるように毎日気持ちを軌道修正しながら生きることを心がけています。

展示の依頼をいただけることは、一番の励みになるし、自分が制作する意味を強く感じられてありがたいんですが、もし依頼が何もなくなっても、それでも作りたいと言える人でありたい。制作への意欲が日々のあれこれにかき消されてふっと途切れてしまわないように、とにかく小さな調べ物や興味のある本を読んだりするところからモチベーションを上げて、自分の中で、いつやるぞってなってもちゃんと着火できるようにしています。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいいますか？

一番は夫でしょうか。保育園であった日常の出来事も、不安に思うことも口に出すようにしています。ただ彼は彼で制作の時間が欲しいので、全面的な協力を得られるわけではないけれど、バランスをとりつつやっています。夫は家事育児に協力的で、夜ご飯を作ったり、スーパーに週に2・3回買い出しに行くということはやってくれているのでありがたいです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

☒ リサーチ ☒ 制作 ☒ 展示 ☒ ワークショップ ☐ アーティスト・イン・レジデンス ☐ その他

アーティスト・イン・レジデンスをやりたいのですが、実際には今は子どもと離れることが難しいので今は無理ですね。FASに通って制作して、帰ってきたら子どものことをやるというような滞在の仕方なら手が届きそうかなと思うものの、仕事との両立を考えるとそれも理想。だから、今は自分の生活ベースに沿ったリサーチ、制作、展示に力を入れたいです。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

☒ 家族の協力 ☐ ひとりの時間 ☒ 収入 ☐ 美術に関する仕事への就労 ☐ 仲間の存在 ☐ その他

全部必要ですが、お金があれば仕事を調整するとか、制作以外の仕事をしないという選択もできると思います。お金があれば家族も説得できそうですね。まわりが応援してくれてないと何も始まらないと思います。(あと、〇はつけないけれど、) 仲間の存在も大事ですね。普段はなかなか会えないけれど、制作を頑張っている様子を見聞きすると励まされます。それぞれやっぱり立場がちよっとずつ違うから、若い頃のように、悩み聞いてよとは気軽に言えないし、時間を使わせるのも申し訳なくて、どこまで頼っていいのかのバランスが分からなくなってしまうところもありますが、気兼ねなく話し合える人が身近にいれば心強いと思いますね。

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

ゆとりのある搬入・搬出スケジュールはすごく助かりますね。すぐできそうな中では一番ありがたい。あと、情報交換や相談ができる場があれば、行くかどうかはともかくとして、あるというだけで拠り所になるかもしれません。公民館でやっている子育て支援プログラムもそうでしたが、話せる場所があるのは確実に励みになりましたから。対面よりもオンラインの方が子育て中は利用しやすいでしょうね。他の作家が子育て中にどういうことを考えていたかは興味があるので、そういう機会があれば、聞きたいです。

それから、これはすぐに実現できるような話ではないかもしれませんが、作品の保管場所の仲介をしてくれる

サービスがあるとすごく嬉しいです。例えば、作品を保管できる藤沢市内の空き家やお部屋を、格安で紹介してもらえると助かります。子育てをしていると、制作スペース問題が大きいのです。自宅の外にアトリエや倉庫を借りることができれば一番いいのですが、そこまで金銭的な余裕がなく、現状ではアトリエと倉庫として自宅の2部屋を潰しています。子どもも大きくなってきたので、せめて倉庫の部分だけでも外に確保できたら、子ども部屋として使えてよいのですが。

日本画は湿気に弱いので、工業用の倉庫や道路沿いにあるようなコンテナ型のトランクルームではちょっと心配なんです。害虫も気になりますし。美術用の空調が管理されている部屋が一番いいのですが、それを借りるほどのお金がない場合は、いかにも外気が入ってくるような所よりは、人の住宅の一部屋の方が安心です。水道もエアコンもなくていい。ただ置く場所があって雨風しのげて、時々戸を開け閉めして風通しできるという状況であればいいんです。古くても大丈夫で、リノベーションやリフォームも必要ありません。すごく狭い部屋でもアパートでもいいので、格安で利用できると制作活動が続ける上で助かります。その延長でアトリエも格安で貸してもらえたら最高ですけど。

保管場所のなさを考えると、気持ちが暗くなるんですよ。作っても場所を狭くするだけなのかなって悲しくなるので、スペースがあると、作家活動を肯定されている気持ちになります。

それから、私自身が苦手だからというのものもあるんですが、作品の搬入時に何かを組み立てたり、測ったり、設置するというような作業を気軽に頼める大道具チームがいれば嬉しいです。作家によっては自分で全部できる人もいれば、自分ではできなくても作家仲間に頼める人もいると思うんですが、そのようなツテに自信がない人が頼めるチームがあればいいと思います。

都合が合えば作業を安価でお手伝いできますよってという人の登録名簿を FAS がもっておいて、例えば、〇月〇日に屏風の設置作業をお手伝いいただける人募りますという情報を流したら、行ける人が手を挙げる。そういう仕組みをイメージするといいでしょか？

そうです。FAS は仲介するだけで、あとは当事者同士がやり取りする感じ。最初は A さんが手を挙げたけれど、もし予定が合わず来れなくなっても、すぐに B さんを紹介してもらえる、と言った臨機応変さがあるとなおいですね。

私の場合、大きい絵の搬入時は夫に手伝ってもらったり、展示場所のスタッフの力を借りたりして何とかしのぎましたが、もっと大きな作品を作りたくなって人手が足りない時、夫もスケジュールが合わないし、友達にも頼める人がいないという状況になっても心強い。あと、作品の撮影時に、カメラマン以外で絵を運ぶ人が必要な場合もあって、紹介してもらえたら嬉しいですね。自分が子育てが終わったら、助ける側になれると思いますし。作業時間は数時間程度の拘束で済むので、交通費とかお茶代に個人的に少し上乗せして支払うくらいなら利用しやすいと思います。

あと、これは FAS にということではなくて、社会全体に対しての希望なのですが、誰にでも子育てや介護など、誰かのために自分の時間が割かれるということは起こりえるはずなので、どんな作家でも制作に対して開かれていることが実感できる社会になると嬉しいですね。例えば、コンペの応募資格に 40 歳以下というふうに線引きがあると、パタパタしてるうちにリミットが来て、追い詰められたり、何も出来なかったと凹んだりするので、せめてその線引をなくすコンペが増えるだけでも心理的には救われます。

タイミング的に今はできないことがあって罪悪感をもっている人に対して、「今はそれで大丈夫。次が絶対あるから。」というような社会的な理解と応援があると制作が続けやすいと思います。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

取材も制作も時間を増やして、発表も積極的に行いたい。その延長でアーティスト・イン・レジデンスに行ってみたいなと思います。今、日本の土地や地形が気になっているんです。あと、古事記を読み始めたんですが、山陰や九州の神話に出てくるような場所って地形も面白かったりするので、現地に行って、スケッチを取ったりしてみたいですね。古典から着想を得て地質や地形と絡めながら描くのは楽しそうだなと思っていますところ。